

岩手県
栗石町
南畑地区

これからの 農家住宅

提案報告概要書

コテージむら農家住宅推進協議会

岩手県栗石町南畑地区にある
農地付き住宅の販売区画「コテージむら」をフィールドに、岩手県を地元として農業や住宅に携わるプレーヤーが集まりました。

そこでこれからの時代の生き方・働き方に向けた新しい農家住宅や農的暮らし方について検討し、その中で生まれた二つのモデルプランを「これからの農家住宅」としてまとめたのがこの提案報告概要書です。

岩手の自然とともに生きていく農家住宅の新たな可能性として、岩手からの提案をご覧ください。

がつつりプラン

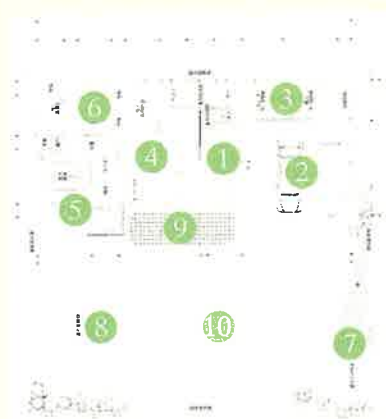
日本一暖かい農家住宅



春夏秋冬、農家の暮らしは季節とともに移り変わります。春・秋は農業をしながらも快適に暮らせる充実した設備と使いやすい間取り。

お客さんが来たら広い土間でおちゃっこを飲みながら、自家製の漬物を食べ比べ。休みの日には駐車場奥の秘密の部屋で、スノーボードを磨いたり、毛糸でクラフトを作ったり、一年を通して農業はもちろん趣味や副業も充実した暮らしを提供します。

昔ながらの新ストーブ、土間や蔵の機能を受け継ぎつつ、最新の高断熱素材を組み合わせることで、冬の岩手の寒さをもものもしない、日本一暖かい農家住宅ができました。



point 1

お茶飲み空間 「Domakko」
駐車場から家に入ると広い「土間」がリビングとシャワー室に続いていきます。畑で汚れたまま家に入っても大丈夫な間取りは農家視点からの便利ポイント。ご近所さん方が集まる「おちゃっこ」空間としても活躍。

point 2

自家用車2台分の
全天候型駐車場 「Hisashi」
収穫した野菜を軽トラックに積んで帰宅しても、天気を気にせずそのまま室内に運び入れることが可能な大きな庇（ひさし）に守られた駐車場です。

point 3

農閑期には趣味に没頭、
隠れ家的独立空間 「Himedono」
駐車場の奥には2つの独立した小部屋を用意。夫婦や子どもがそれぞれ「姫」と「殿」の秘密基地として、ウインタースポーツの手入れをしたり、庭で飼っている羊やアルパカの毛でクラフトを作ったり、自由で楽しい使い方を。

point 4

リビングダイニング土間こキッチン
「EDDK」
Domakkoからつながる広いリビング・ダイニング・キッチン。薪ストーブと床暖房に高断熱の住宅設計で、岩手の冬も暖かく、夏は涼しく過ごすことを実現。家族が増えても、歳を重ねても、安全に快適な暮らしを妥協しない農家住宅を。

point 5

フライパシーに配慮した
応接室と来客用玄関 「Mossu」
来客用正面玄関のホールは空間として仕切られていて、リビングと応接室のどちらにも案内できるような間取りにすることで、フライベートな空間・時間を守りながら家族が生活できるように配慮。

point 6

家族用の部屋は3部屋、
子どもの出入りがわかる配置
家族が増えても目が届くよう、子ども部屋は家族用玄関から夫婦の寝室前を必ず通る動線に。共有する空間とフライベートな空間を分けつつも配置を工夫することで、暮らしやすく安心な農家住宅を。

point 7

小さな畑十家畜小屋
「アルパカの家」
敷地内には自家消費・加工用の小さな畑と、家畜用の小屋を設置。羊・ヤギ・アルパカなど、共存する動物たちから素材を頂いて、加工品や趣味に活用する豊かな暮らしを。

point 8

農機具に侵食されないための
農業機械小屋を設置
営農に伴う様々な農機具や農業機械に暮らしの空間を埋められてしまわないよう、敷地内に専用の小屋を設置。トラクターや乾燥・袋詰の機械なども置けるだけのスペースを確保。

point 9

住宅正面にも畑をおいて、
暮らしに近い農業空間を
リビングから見える正面にも畑や花壇として使える農業スペースを確保。自家消費用の野菜やハーブを育てるなど、稼いだための農業に特化してしまいうことなく、日常生活の中に農的暮らしを取り入れて豊かな生活を。

point 10

自家用車や農業機械の
出入りを妨げない敷地通路。
農業住宅としての機能を最大限に高めた上で、農家目線からの使いやすさのこだわりを追求。自家用車と農業機械の動線を考え、敷地内にも広くスペースを確保。来客や親戚の車を臨時で停めたり、冬場は一時的な雪置き場としても使えるような配慮に。

シンプルプラン ハイブリッドファーマーズ



農家暮らしに興味はあっても、最初の一步を踏み出すのはなかなか大変なものです。そこで、コンパクトでシンプルな農家住宅はいかがでしょう。

住宅の機能は最小限（でも必要十分）のワンルームから始める兼業・副業農家暮らし。リモートワークにも不自由しない高速インターネット回線完備で、クリエイティブで新しい働き方を応援します。

初期コストを抑えた移住で小さく無理なく農業を始めてみて、さらに本格的に就農したくなったら「ガッツリプラン」にステップアップするのも一つの方法です。



point 1 上部ロフト付きの土間を玄関兼作業場として。

最小限の生活でも家の中で様々な作業ができるように小さな土間を設置。住宅内には基本的に収納スペースも設置しないことから、多目的に活用可能な土間と上部ロフトを季節を問わず快適な室内作業場所として活用。

point 2 ワンルームだからこそ自然エネルギーで快適に。

リビングには薪ストーブを設置。暮らす空間が小さいからこそ、太陽光や風力など、様々な自然エネルギーを少しずつでも取り入れながら、無駄のない暮らしを実現することが可能に。

point 3 水回りは北側の壁に沿ってまとめ、空間を最大化。

ミニキッチン・トイレ・シャワー室（浴室なし）という最小限の構成を住宅の長辺に沿って縦列配置。土間からリビングまでのワンルームを広く長く確保し、採光を兼ねた窓も玄関から入って最も奥に設置することで、明るく広く使えるワンルームの住宅に。

point 4 小さな畑を家の脇に。農的な暮らしをすぐそばで。

シンプルプランでは敷地内の住宅以外のスペースで農業を営むケースと、敷地内には4棟のシンプル住宅を建てて敷地外で農地を準備するケースを想定。後者の場合でも、家に隣接した自家消費用の小さな畑を設置することで、日常生活に近い場所でも農的な暮らしを感じられるような空間に。

point 5 ミニマルな住宅だからこそ、敷地内に併設が可能に。

最小限の農業住宅として、想定した敷地内に同様のコンパクトの住宅を3棟まで併設可能。家族が増えた場合の別棟としての増設や、敷地を分けてシンプルプランで4世帯が住むことも。敷地も住宅も最小限にすることで、コストも抑えながら農的な暮らしを始められるというスタートアップの敷居を下げる効果も。

岩手らしさを、暮らしに。
一点豪華の
すすめ



建築資材や設備に取り込むことができる岩手ならではの素材があります。例えば「漆」。日本全国の漆生産量の約七割五分を生産しているのが岩手。この岩手が誇る日本一の特産品「漆」を農家住宅の一部に使うことはいかがでしょうか。例えば洗面台、玄関のドアノブ、表札、玄関壁面の化粧パネルの一部など、「一点豪華」で住宅に華を添えることも。特に「シンプルプラン」の最小限の住宅設備。このミニマルな住宅にも一点豪華で岩手ならではのポイントが加わることで、単に簡素なものではなく、地域で育まれた暮らしの哲学を持つて建てられた家で暮らしていることの象徴的な証明にもなるのです。もちろん、生活の道具として漆器や南部鉄器などを取り入れることも、岩手での暮らしを手軽に彩る方法のひとつです。岩手の土と水と日差しで育てた作物を、岩手の器で味わうこと。その空間全体が「これからの農家住宅」です。

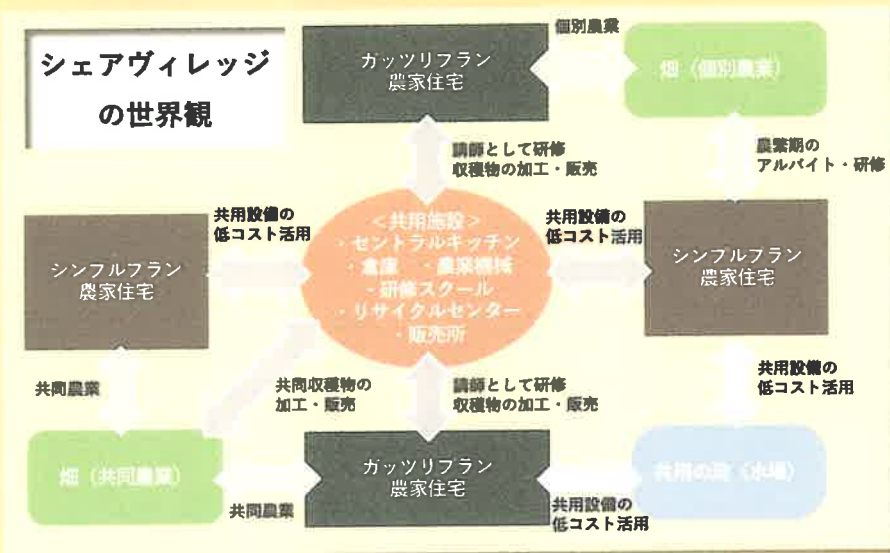
新しい農家住宅がなくなり、村となる。

シェアヴィレッジ構想



「シンプルプラン」と「ガッツリプラン」の農家住宅について、それぞれが「シェア」という考え方の元に一つの村（ヴィレッジ）として共存する可能性について示されました。「シンプルプラン」は住宅機能は最小限にする一方で、各区画の中心的な場所に共用施設をつくり、大型の台所（セントラルキッチン）、倉庫、農業機械置き場などを住民がシェアできるようにします。また、共用施設では研修スクールなどのサポート機能も提供します。これにより農業を始めるための初期コストを抑えることができ、若年層などの参入障壁の打開にもつなげようとする構想です。

また、「ガッツリプラン」の農家住宅との共存も想定されます。「ガッツリプラン」の広い畑の農繁期には共用施設を通して「シンプルプラン」の兼業住民が短期就業や手伝いをしたり、両者が共同で営農する農地を設定し、共同農地での収穫物は共用施設で加工・販売することで新たな商品開発や雇用創出にも繋げられる可能性が考えられます。



「コテージむら」について

コテージむらは、農的暮らしを楽しみたい人等のために造成した二団の土地。

総面積約六十三ヘクタールの土地には、インストラクターの指導が受けられる体験農園や農産物加工施設などが整備され、温泉が配管された宅地付き農地として分譲中。住民は、県外からの移住者が多く、有機農業や、つづくりをして販売したり、広い土地を活かして羊を飼っている方もいます。周辺には、乗馬、カヌー、スキー、ゴルフ、テニス、クレー射撃などの各種スポーツや釣りができる環境、レクリエーション施設、個性豊かな温泉などがあり、趣味を楽しむフィールドも充実しています。

岩手山を望む絶景の中で、農的暮らしを楽しもう！

NPO 法人しずくいし・いきいき暮らしネットワーク

Tel. 019-695-2306 E-mail. shizuku-ikiikinpo@sunny.ocn.ne.jp

HP <http://www.i-agri.or.jp> ※最新情報は南畑地域協議会のフェイスブックをご覧ください。

岩手県農業振興課 農用地計画・交流担当

Tel. 019-629-5645 E-mail. AF0004@pref.iwate.jp

公益社団法人岩手県農業公社総務部 総務課

Tel. 019-651-2181 E-mail. cottage@i-agri.or.jp

「農家住宅」の
取り組みについての
お問い合わせ先

コテージむらの
お問い合わせ先